

第4期多摩区区民会議 第5回区民会議 次第

日時： 平成25年9月4日（水）

18：00～

場所： 多摩区役所6階601会議室

開会

1 開会挨拶

2 議事

(1) 部会での審議状況と意見交換

- ・コミュニティ部会
- ・自然災害部会

(2) その他

- ・区民会議フォーラムについて
- ・次回区民会議日程について

3 閉会挨拶

閉会

<配布資料>

- | | |
|-----|------------------------|
| 資料1 | 第4期多摩区区民会議委員名簿 |
| 資料2 | 多摩区区民会議座席表 |
| 資料3 | 区民会議スケジュール |
| 資料4 | コミュニティ部会の検討シート |
| 資料5 | 自然災害部会の検討シート |
| 資料6 | 町会・自治会へのアンケート（案） |
| 資料7 | 第4期多摩区区民会議フォーラムについて（案） |

第4期 多摩区区民会議委員名簿

任期:平成24年7月1日～平成26年6月30日 (敬称略・50音順)

NO	氏名	部会	推薦団体 及び 活動団体
1	安倍 修司	自然災害部会	多摩区商店街連合会
2	荒井 精一	☆自然災害部会 企画部会	市民公募
3	○石橋 吉章	自然災害部会 企画部会	区長推薦
4	岩崎 宏政	自然災害部会	多摩区・3大学連携協議会
5	◎大津 努	コミュニティ部会 企画部会	多摩区社会福祉協議会
6	清宮 明	自然災害部会	多摩防犯協会
7	国保 久光	コミュニティ部会	川崎市医師会多摩区医師会
8	小塚 千津子	コミュニティ部会	多摩区こども総合支援連携会議
9	白井 正壽	コミュニティ部会	セレサ川崎農業協同組合
10	辻野 勝行	☆コミュニティ部会 企画部会	市民公募
11	○戸高 仁子	コミュニティ部会 企画部会	かわさきかえるプロジェクト
12	西山 英子	コミュニティ部会	多摩区文化協会
13	新田 渉世	自然災害部会	区長推薦
14	配島 裕美	コミュニティ部会	多摩区地域教育会議
15	原田 弘	自然災害部会	多摩交通安全協会
16	藤原 司	自然災害部会	区長推薦
17	細埜 隆己	★自然災害部会 企画部会	登戸土地区画整理事業まちづくり推進協議会
18	本多 正典	コミュニティ部会	市民公募
19	松本 英嗣	★コミュニティ部会 企画部会	多摩区町会連合会
20	吉田 輝久	自然災害部会	多摩区自主防災組織連絡協議会

◎委員長 ○副委員長 ☆部会長 ★副部会長

【参与】

市議会議員

井口 真美 河野 ゆかり 斉藤 隆司 菅原 進 露木 明美
橋本 勝 廣田 健一 三宅 隆介 吉沢 章子

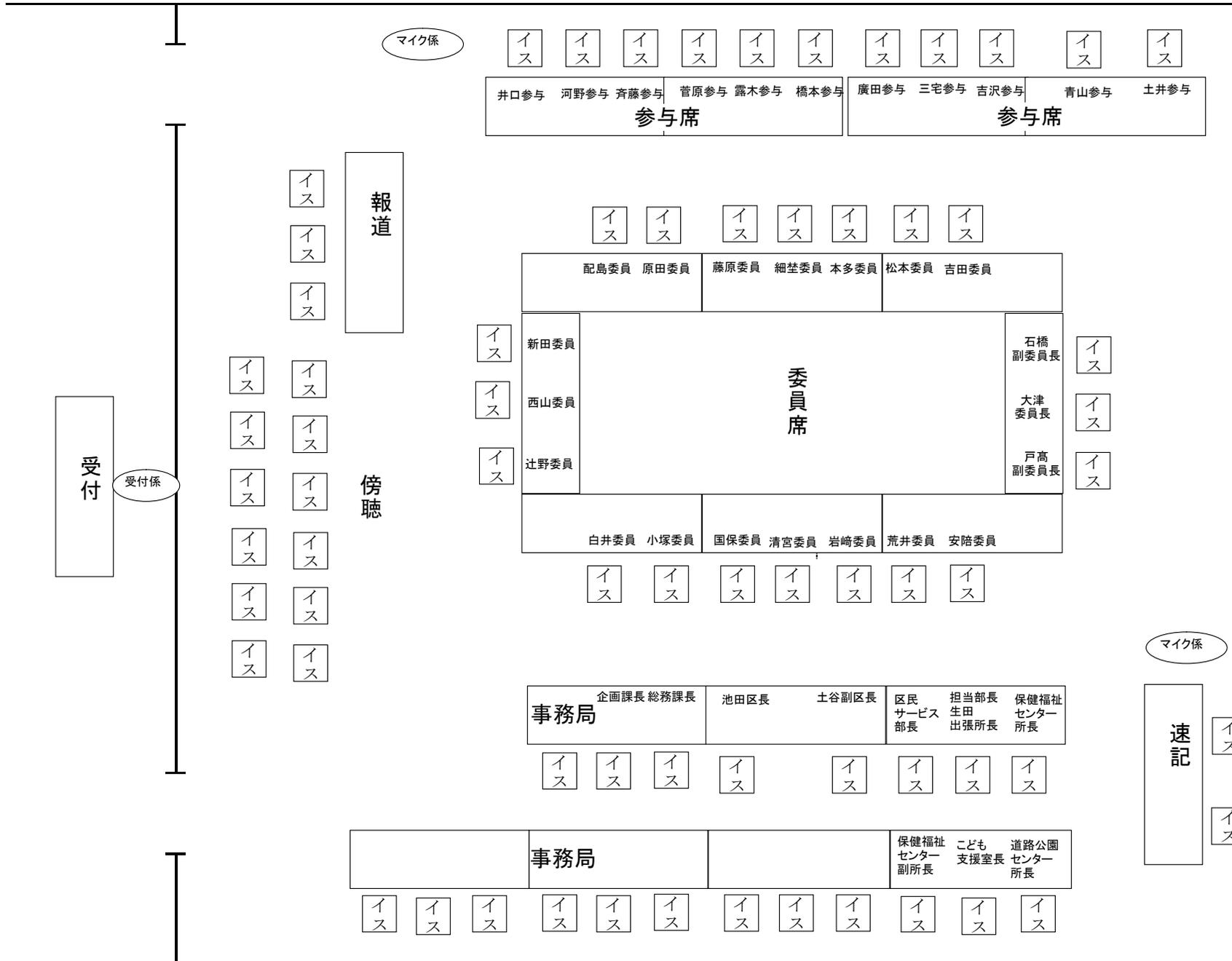
県議会議員

青山 圭一 土井 りゅうすけ

多摩区区民会議

資料2

601会議室



第4期多摩区区民会議 開催スケジュール

平成 25 年9月4日現在

		平成 24 年度									平成 25 年度														
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
区民会議 (全体会議)	区民会議 ニュース					★ 第1号発行				★ 第2号発行								★ 第3号発行				★ 第4号発行			
	ミーティング ・ フォーラム	第1回 ● 8/24 地域課題について		第2回 ● 9/25 審議テーマの ア出し		第3回 ● 10/23 審議テーマ案の 部会案の決定											区民会議フォーラム ■ 11/23 (土・祝)								
	全体会議	第1回 ■ 8/30 ・審議テーマの 確認 ・運営方法の 検討		第2回 ■ 11/6 ・審議テーマの 設置		第3回 ■ 2/12 ・現状と課題の 全体審議		第4回 ■ 5/28 ・解決策・取組内容 実施主体の検討		第5回 ■ 9/4 ・解決策・取組内容 実施主体の検討 フォーラムの 検討		第6回 ■ 11/12 ・フォーラム前 の内容確認		第7回 ■ ・最終報告書の 確認		区長へ結果報告 (最終報告書)									
企画部会 (調整・運営部会)						事前調整 ● 2/4		事前調整 ● 5/22		事前調整 ● 8/30		11/7 フォーラム準備、 全体会の事前調整		事前調整 ●											
専門部会	コミュニティ部会					審議テーマに関する現状・課題 の把握(※)				・解決策の検討 ・実施主体の検討				・取組内容の検討 ・モデル的な取組の実施				最終報告に向けての まとめ							
	自然災害部会					審議テーマに関する現状・課題 の把握(※)				・解決策の検討 ・実施主体の検討				・取組内容の検討 ・モデル的な取組の実施				最終報告に向けての まとめ							

*適宜現地視察や、関係者ヒアリング、勉強会などを開催。

コミュニティ部会「顔の見える地域に根ざした「絆」を構築する」検討用シート

テーマ	現状と課題	解決の方向・解決策	具体的な取組	実施主体
地域に参加してもらってしなやかにつく	<p>【現状】 人々の地域との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定年退職した男性はそれまで地域との接触が少なかったため、退職後地域活動に関わるよりも会社から開放された自由を楽しむ気持ちが強く、なかなか地域に出てこない。 ・若い人は仕事中心で時間がなく、地域への参加はむずかしい。 ・子どもたちは低学年までは地域との接触があるが、高学年になると塾・習い事などで地域に参加できる時間がないため、イベントなどに出てくる子どもが少ない。 ・戸建住宅の住民は顔見知りになる機会が多いがマンションに住んでいる住民とは顔見知りになる機会が少ない。 <p>【課題】 地域に出てくるしなやかにつく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退職して家に引きこもりがちの人たちが地域に出るきっかけが必要。好きなことで引っぱり出すしか方法はないだろう。さまざまな能力をもった退職高齢者を地域に引き出すことが必要だ。 ・やる気のある人は多少の困難があっても、時間をつくって、どんなところだって出ていく。やる気のない人をどうやって引っぱり出すかが課題だ。 ・地域に出て来ない人であっても、本当はどこかのコミュニティに属したいのではないか。出てこない人をどうやって出てこさせるようにするかが、コミュニティ部会の目的ではないだろうか。 ・地域の集まりではみんな挨拶や会話をしている。これをどう共助につなげていけるか。 ・人はたまたま出会ったものを面白い、楽しいと感じて活動が続く。外に出ない人でも、そういう出会いの場をどうしたらつくれるかを考えるとよい。 	<p>地域に出てくるしなやかにつく 区民がそれぞれの関心に応じて地域や住民と触れ合える仕掛けを考案し、多くの区民が地域に出てくる機会を増やすことをめざす。</p> <p>(1) イベントカレンダーの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベント、行事、祭りなどを載せたイベントカレンダーを作る。 <p>(2) 多様な趣味にふれあえるしなやかにつくの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々がふらっと参加でき、多様な趣味とのふれあいを楽しめるしなやかにつくを考案する。 <p>(3) 農業の切り口から地域の絆が生まれるしなやかにつくの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩区らしい絆づくりとして、農業、食育、健康をテーマにしたしなやかにつくを検討する。 	<p>(1) イベントカレンダーの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政関係イベントと地域教育会議が把握する地域イベントをベースに、まち協で調べた祭事、せせらぎ館実施イベントを加え情報収集する。 ・イベントの掲載方針・基準を決め、情報を選択し、媒体の選択、周知方法、情報の更新方法などを検討する。 <p>(2) 多様な趣味にふれあえるしなやかにつく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民館デー」に参加し、囲碁・将棋トランプ、マジックなど退職男性や子どもたちが興味を持てる企画を実施し、ふれあいの機会をつくる。 <p>(3) 農業の切り口から地域の絆が生まれるしなやかにつく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物をその場で料理するなど、農業、食育、健康のテーマを一度に体験できる活動を行うことを提案する。 	
コミュニケーション能力をはぐくむ	<p>【現状】 地域参加のしなやかにつく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人が気楽に参加したい気持ちになって、その活動の居心地がよければ、続く ・人は誰でも必ず食事をするから、イベントには出て来ない人も食事なら来るということで、多摩ニュータウンには「福祉亭」という食堂がある。地域の絆づくりのためにコミュニティカフェを始めた。 ・わくわくプラザには1～3年生の子どもたちが20～60人くらい来ている。そういう場に地域の人も手伝いにきている。 ・大学生によっては、コミュニケーション能力が身につけていないために、学校生活を続けられない学生が生まれた。ある大学では学生に対して大学生活の送り方を学習する機会を設けている。 ・場所ありきではないだろう。人と仕掛けがあれば、場所はあとからついてくる。 <p>【課題】 コミュニケーション能力をはぐくむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合築のこ文と老人いこいの家では、高齢者との間に好きなことを教え、教えられる関係が生まれ、楽しい活動が続いている。こうした活動を広げられないか。 ・人とコミュニケーションできる能力がすべての基本である。それが薄れてきた最近の状況をどうやって変えることができるかを考えることが必要だ。 ・挨拶ができる関係から、コミュニティは始まる。挨拶運動、声かけ運動も必要だ。 	<p>コミュニケーション能力をはぐくむ 知り合いになるためのきっかけとして気軽にあいさつを交わせるようなコミュニケーション能力をはぐくむ仕掛けを検討、推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体操は健康・長寿に役立ち、あいさつできる関係につながるのでみんなで集まって行う体操の普及を検討する。 ・地域内であいさつできる関係が生まれる集まりの開催手法を検討する。 	<p>(1) あいさつ運動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操を多世代参加型に変えるアイデアを検討し提案する。 ・地域でも行事に多世代で参加できる企画を提案する。 	

■コミュニティ部会—区長への結果報告までの具体的な道筋を見通し、作業を進めよう！

	具体的な取組	6月	7月	8月	9月	10月	11月	まとめ期間 (11月24~3月中旬)			区長への結果報告 成果物のイメージ (実施主体を明示)																																																	
		部⑤ 6/28	部⑥ 7/26	部⑦ 8/19	全⑤ 9/4			フォーラム11/23 (土)																																																				
地域に参加してもうしなかけづくり	● イベントカレンダーの作成	<ul style="list-style-type: none"> 主なイベント・行事を載せる。 町内会に体育祭、運動会、地域の祭りについてアンケートを取り、情報収集する。 区関連イベントを載せる。 	<ul style="list-style-type: none"> 町内会・自治会に祭のアンケートを行う。 地域教育会議、市民館のイベント情報を集める。 イベントの掲載基準、形式、作成時期、更新時期、周知方法作成主体を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 町内会・自治会に祭・イベントのアンケートを行う。 アンケートに記入した祭り・イベント情報の公開についての考えがわかるようにする。 			<table border="1"> <tr><th colspan="7">11月</th></tr> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> </table>	11月							日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30				
	11月																																																											
	日	月	火	水	木	金	土																																																					
					1	2																																																						
3	4	5	6	7	8	9																																																						
10	11	12	13	14	15	16																																																						
17	18	19	20	21	22	23																																																						
24	25	26	27	28	29	30																																																						
● 学びのフェアで出会いの趣味活動 (多様な趣味にふれあえるしかけ)	<ul style="list-style-type: none"> 市民館デーで、ふれあいの機会をつくる。 囲碁将棋を柱に多世代が参加するしかけをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民館デー (8/25) で囲碁将棋、トランプを用意し、ふれあいルームを運営する。 囲碁の対応者を確保する。 当日9時半集合し、準備、10時から14時ころまで開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民館デー (8/25) に囲碁将棋、トランプ、マジックの準備をし、チラシを配布し、10時~14時までふれあい活動を行う。 参加者アンケートを行う。 																																																									
● 農・食育・健康活動 (農業の切口から地域の絆が生まれるしかけ)	<ul style="list-style-type: none"> まち協開催予定の梨もぎと食育の会とコラボし、同様の会合の開催、JAの意向などを探る。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月のまち協食育イベントに国保委員の講話で参加する。 11月2日のイベントも併せ主催者と協議しアンケートで意向を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> 11月2日のイベントに参加し、農・食育・健康活動事例の現状を把握する。可能であれば参加者アンケートを行う。 白井委員にJAの状況も含め拡大への意向を聞く。 				11/2 (土) 「食育の秋 in よみうりランド」 地域保健福祉課																																																					
力を育む コミュニケーション能	● あいさつ運動の展開 ・ラジオ体操を多世代参加型に ・地域行事を多世代参加型に	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ体操の実態調査を行い、体操とあいさつ運動の可能性を検討する。 あいさつ運動の展開方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 町内会・自治会にラジオ体操の現況と今後の方向性について聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 町内会・自治会にアンケートでラジオ体操の実施状況を問い、ラジオ体操の可能性を探る。 あいさつ運動の展開方法を検討する。 																																																								

自然災害部会「いざという時に助け合える体制づくり」検討用シート

テーマ	現状と課題	解決の方向・解決策	具体的な取組	実施主体
情報の周知	<p>□発災前 【現状】 ・川崎市が防災啓発用小冊子「備える。かわさき」を作成。初版は町内会等を通じて全戸に配布した。 ・川崎市が「洪水ハザードマップ」を作成した。 ・川崎市のホームページで、各種防災情報を入手可能である。</p> <p>【課題】 ・「備える。かわさき」、「洪水ハザードマップ」等は、区民一人ひとりにとって役立つ具体的な情報になっていない。 ・誰に対して、どんな情報を伝えるかが重要だ。 ・ホームページで情報が入手できることが知られていない。 ・町内会を通じて配布される資料は、いざという時に手元にないことがある。また、見ていない人も多い。 ・液状化、上水道の漏水、がけ崩れ、集中豪雨・ゲリラ豪雨、洪水といった項目について、トータルに情報を見ることができない。 ・防災に関するさまざまな団体・組織があるが、それらがどのような活動をしているのかあまり知られていない。 ・防災に対する関心の低い人たちに、どうすれば関心を示すように情報を伝えることができるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既存の防災関連の資料を、より効果的な手段で家庭に配布する仕組みをつくる。 多様な情報をわかりやすくまとめる。 情報をマニュアル化したパンフレットを作成する。 いざという時に欲しい情報が得られるシステムを作る。 まず子どもたちに防災の必要性を伝え、子どもたちを通じて家庭や大人に情報を広める。 	<ol style="list-style-type: none"> 多摩区版「備える。かわさき」の作成 ・冷蔵庫へ貼付できるマグネット式 ・発災時、緊急時の留意点を記載 町内会・自治会広報誌への防災情報の掲載 身近な単位（自主防災組織、スクールゾーン等）での防災マップの作成 ・町内会・自治会備蓄品の記載 ・コンビニエンスストアの記載 回覧板を活用した情報周知 ・回覧板表紙に防災マップの貼付 ・地区別情報、詳細情報等を定期的に周知するホルダー 	
	<p>□発災後 ・発災時の災害情報が、市、警察署、消防署、各種団体、町内会にどのように伝わり、組織がいかに情報を一つにして連携を取るか。また、その中に市民をどう巻き込めるかが重要だ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の一斉メールを災害時にも活用し学校・学区ごとできめ細かい情報伝達を可能にする。 災害時の情報伝達手段として、区内でアマチュア無線をやっている人たちの協力を得る仕組みを作る。 		
生徒・学生との連携	<p>【現状】 ・川崎市と明治大学で協定を結び、地域産学連携研究センターに備蓄倉庫を設置、毛布等の災害物資を備蓄している。 ・明治大学の学生のうち、約3割は区内在住である。</p> <p>【課題】 ・大学生は4年経つと卒業してしまうため、継続性が乏しい。 ・大学生は災害時に交通が普及すると、帰省してしまう。 ・大学は、まず学生の安全確保が第一だ。3.11の際は、ボランティアの立上げに約1ヶ月を要した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大学と区が連携を図る中で、大学として協力が可能な内容を探る。3大学連携の中で検討を進める。 区内在住の学生を、住民として位置づける中で、学生による支援のあり方を検討する。 大学の寮に住む学生を、学校単位で避難所の担当を決め、災害時の避難支援をお願いする。 大学生に限らず、中学生、高校生等との協力のあり方、若い世代の支援のあり方を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> 大学との連携に関する専門家の意見を聞くセミナーの開催 大学生対象防災セミナーの開催・学生向け防災パンフレットの作成・配付 大学連携に関する地元意向の把握 大学生の災害時の地域支援意向の把握 区内在住大学生との連携の仕組みづくり 中学生・高校生・大学生のHUG体験 	

テーマ	現状と課題	解決の方向・解決策	具体的な取組	実施主体
避難所と備蓄倉庫	<p>【現状】</p> <p>①避難所運営の組織・体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織は町内会・自治会を中心に、稲田地区に55、生田地区に75組織されている。自主防災組織が中心になり、小・中学校区ごとに避難所運営会議を組織している。 ・宿泊型の避難訓練を実施している避難所運営会議がある。 <p>②避難所の位置・規模</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内には、21の避難所がある。区境の地域は隣接区の避難所が指定されている。 <p>③避難場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時避難場所は公園や空き地等に一時的に集合するもので、町内会等が任意に決める。 ・菅地区には緊急時の避難場所として指定されている農地がある。川崎市民防災農地登録制度では、個人が登録した農地を一時避場所として利用できるようにしている。 <p>④備蓄倉庫・備蓄物資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所などに備蓄倉庫が設置されている。確保できる収容面積に合わせて備蓄しており、近隣の避難所と融通し合うことになっている。 ・避難所に対して支援物資の輸送がなされ、避難所が配付所になる。 ・小学校の空きスペース等を利用して災害物資を備蓄している。平成27年度には、全ての避難所で備蓄倉庫が整備される予定だ。 ・町内会・自治会は、近隣の公園等に防災倉庫を設置し、独自に備蓄を行っているところもある。 <p>【課題】</p> <p>①避難所運営の組織・体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入していない一人暮らしの若い世代や自治会の無いマンションは、自主防災組織に参加していないことが多い。 ・町内会・自治会の役員は高齢者が多く、いざという時に即戦力として活動することが難しい。また、メンバーが2年で変わってしまう組織もある。 ・一つの町内会・自治会が複数の避難所運営会議に関わっているため、そこに役員を出すのも大変だ。町内会・自治会に負荷がかかっている。 ・避難訓練等を積極的に実施し、良く機能している自主防災組織とそうでない自主防災組織の差がある。 ・避難所運営会議、防災ネットワーク会議は活発に活動しているところとそうでないところがある。 ・生田小学校と生田中学校は山を越えないといけない等、連会の難しい避難所がある。 ・避難所運営会議の存在・役割が区民に知られていない。 <p>②避難所の位置・規模</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の名称は掲示してあるが、地図や方向指示がないので、土地勘がない人は避難所の場所がわからない。 ・想定される避難者の人数が、収容人数を超える避難所がある。受け入れをどうするか課題だ。自宅が無事であれば避難しなくても良いことをあまり知られていない。 ・高台にある避難所があり、高齢者や足の不自由な人は避難が難しい。決められた避難所は最適な位置にあるのか。 ・避難所までの経路の検証が必要だ。 <p>③避難場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時避難場所を設定していない町内会・自治会がある。身近な一時避難場所を定め、そこから決められた避難所へ移動することが重要だ。 ・河川敷が広域避難場所に指定されているが、洪水などの場合の避難場所を確認する必要がある。 <p>④備蓄倉庫・備蓄物資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救援物資の供給に関しては、障がい等で避難所に取りに行けない人にどう届けるか、自宅で避難生活を送る人にどう情報を伝えるかが課題だ。 ・自助で3日分の食料や飲料は備蓄しないといけないといいことがわかっていない。 ・備蓄内容の把握、整理整頓がなされていない。 ・備蓄倉庫が上階に設置されている避難所では、防災備品を階下に運ぶのが大変だ。 ・リヤカーなど町内会・自治会が購入した防災備品を置く場所がないところもある。買いたくてもスペースがない町内会・自治会もある。公園等に倉庫を設置するには、面積等の制限がある。 	<p>①避難所運営の組織・体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の役割を知ってもらい、若い人たちの参加を促す。 ・コミュニティ部会と連携し、町内会・自治会への加入率を高めることで、自主防災組織への参加を促す。 ・自主防災組織の活動を活性化させる。 ・広報の方法や訓練の内容を工夫し、防災に対して関心の低い人たちの避難訓練への参加を促す中で、自主防災組織の存在を知ってもらう。 ・各避難所運営会議の取組の情報を集め、効果的な物は全区的に展開する。 <p>②避難所の位置・規模</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩区全体の地図に、避難所の位置、区割り等を記載する。また、各委員が把握している、高低差や危険箇所等の情報を記載する。 ・その結果を踏まえ、避難所の位置、規模、区割りなどが適正かどうかを判断し、提言に結びつけられるものがあれば提案する。 <p>③避難場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各町内会・自治会の一時避難場所の設置状況を把握するために、アンケートを実施する。 ・その結果を踏まえて、各町内会・自治会に一時避難場所の指定を義務付けるなど、提言できるものがあれば提案する。 <p>④備蓄倉庫・備蓄物資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品の現状を把握し、エリアごとに必要な備蓄品の内容・量等を提言する。 	<p>①避難所運営会議単位での避難訓練の開催</p> <p>②「あなたの避難所は〇〇学校です」というシールの作成・各戸へ配付</p> <p>③より身近な単位での「いざという時に助け合える体制」づくりの検討</p> <p>④避難所の場所と危険箇所マップの作成</p> <p>⑤町内会・自治会向け一時避難場所等アンケートの実施</p>	

■ 自然災害部会—区長への結果報告までの具体的な道筋を見通し、作業を進めよう！

	具体的な取組	6月	7月	8月	9月	10月	11月	まとめ期間（11月24～3月中旬）				区長への結果報告 成果物のイメージ (実施主体を明示)	
		部⑤ 6/21	部⑥ 7/29	部⑦ 8/22	全⑤ 9/4			フォーラム11/23(土)					
1	●多摩区版「備える。かわさき」の作成	・以下の通りチームを編成 安陪委員、吉田委員、原田委員、細埜委員、清宮委員、藤原委員	■パンフレットチーム ・マグネット方式「あなたの防災情報」(仮)の作成 ・町内会・自治会掲示板への避難所掲示	・マグネット方式「あなたの防災情報」(仮)の検討 ・町内会・自治会掲示板への避難所掲示の検討 ・回覧版方式の検討 ⇒別紙参照				○「備えるか。かわさき」多摩区版の提案 ①マグネット方式 ②町内会掲示板・広報掲示板方式 ③回覧板方式					
3	●回覧板を活用した情報周知	・多摩区版「備える。かわさき」と一緒に検討する	・多摩区版「備える。かわさき」と一緒に検討する	・回覧版方式は引き続き検討									
5	●避難所・備蓄倉庫に関する取組	・一時避難所の設置についてアンケートを実施する ・以下の通りチームを編成 荒井委員、岩崎委員、石橋委員、新田委員	■アンケートチーム ・町内会・自治会向けアンケートの実施⇒アンケート案作成 ・3大学関係者への趣旨・経緯の説明(岩崎委員)⇒大学との連携に関する論点(聞いたこと)の整理⇒大学関係者ヒアリングの実施	・アンケート設問の検討 ⇒別紙参照				○町内会・自治会向けアンケートの集計・分析結果の報告 ○3 大学関係者への意見聴取が間に合えば結果報告					
4	●区内在住大学生と地域との連携の仕組みづくり ①大学生・地元の意向把握	①-1 3大学連携会議で説明の上アンケートを実施する ①-2 町内会・自治会向けアンケートを実施する											
	②学生向け防災パンフレットの作成・配付	②多摩区版「備える。かわさき」と一緒に検討する	・大学・地域の意見等を踏まえた上で検討										
	③中学生・高校生・大学生のHUG体験	③実施状況を把握し委員も参加する	・中学生・高校生・大学生HOG体験を提案					○HUG 現物の展示					
2	●身近な単位での防災マップの作成	・全委員で多摩区全体の防災マップを作成する	・次回防災マップづくり作業	・マップ掲載項目の決定 ⇒別紙参照				○多摩区防災マップの掲示・避難所をめぐる論点の整理					

自然災害部会 別紙

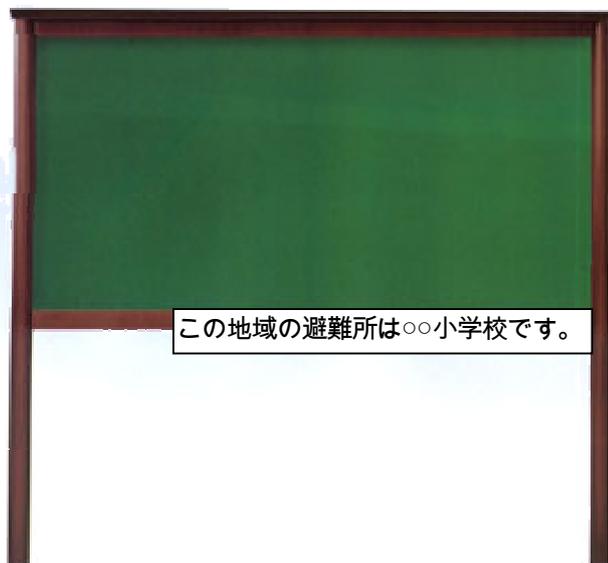
1 マグネット方式のイメージ

- ・冷蔵庫やドアの裏などに、各家庭の避難所、持ち出し品、緊急連絡先をマジック等で記入して貼り付ける、マグネット型の掲示物を作成する。
- ・記入内容を各家庭で話し合うことで、防災に対する意識づけをするきっかけとなる。
- ・配布先・配布方法：全世帯に配布
- ・サイズ 8cm×12cm程度



2 町内会掲示板・広報掲示板方式のイメージ

- ・町内会・自治会掲示板、広報掲示板等に、「この地域の避難所は〇〇です」と掲示。



3 多摩区防災マップ掲載項目（案）

- ①避難所関連：避難所、一時避難場所、広域避難場所、避難区域
- ②災害時拠点：給水拠点、公共施設、公益施設（警察署、消防署、交番等）病院
- ③危険箇所：急傾斜地
- ④その他：防災井戸、ガソリンスタンド、コンビニエンスストア

＜テーマ1＞ 自然災害の取組状況と日頃のお考えについて伺います。

2011年3月11日の東日本大震災以来、防災・減災への関心が高まり、またゲリラ豪雨など天候不順により多発する風水害の影響を受け、地域の安心・安全を高める自然災害へ対策が急務となっています。そこで、あなたの町会・自治会の自然災害への取組状況や日頃のお考えについて、お聞かせください。

問1 自然災害への防災訓練や防災講演会について伺います。

(1) あなたの町会・自治会では、防災訓練を実施していますか？（いずれかに○をしてください。）

- 1 している 2 していない 3 その他（ ）

(2) あなたの町会・自治会では、防災に関する講演会などを開催していますか？（いずれかに○をしてください。）

- 1 している 2 していない 3 その他（ ）

問2 一時避難場所（注※）について伺います。

※一時避難場所とは

- 地域住民が震災（建物の損壊、火災の延焼拡大、危険物の流出・漏えい、津波など）から身の安全を図るため、一時的に避難する場所で、近くの公園や団地、マンション広場などのことです。
- 各町会・自治会・自主防災組織ごとに任意で決めていただいています。

(1) あなたの町会・自治会では、一時避難場所を決めていますか？ 「1 決めている」、「2 決めていない」のどちらかに○をし、続く質問にお答えください。

- 1 決めている → (2) に進む。
2 決めていない → (3) に進む。

(2) 「1 決めている」と回答した方にお伺いします。その一時避難場所について、どのように周知していますか？（あてはまるものすべてに○をしてください）

- 1 回覧 2 チラシ 3 その他（ ）

(3) 「2 決めていない」と回答した方にお伺いします。決めていない理由はなんですか？（最も近いと思われるもの、ひとつに○をしてください）

- 1 避難所が近いので一時避難場所を決める必要性がない。
2 一時避難場所を決めたいが、適当な場所がない。
3 一時避難場所を決めたいし、適当な場所もあるが、手が回らない。
4 これまで一時避難場所を決める検討をしたことがない。
5 近いうちに、決める予定である。
6 その他（ ）

裏面のアンケートにもご協力をお願いします。

問3 多摩区には、専修大学、明治大学、日本女子大学の3つの大学があり、区内に在住する学生も多くいます。そこで、災害時における学生や3つの大学との連携・協力のあり方について伺います。

(1) 地域に在住している学生との災害時の連携・協力について、どのようにお考えですか？ あてはまるものすべてに○をしてください。

- 1 日常的に、地域住民のひとりとして、防災訓練などに参加してほしい。
- 2 災害時に、地域住民のひとりとして避難所の運営などを支援してほしい。
- 3 学生との連携・協力を考えていない。
- 4 その他 ()

(2) 災害時に、3つの大学にはどのような協力をしてほしいとお考えですか？連携のあり方や連携の内容について、具体的にご記入ください。

(3) 学生や大学との連携・協力を進めるにあたり、どのような仕組みや仕掛けが必要ですか。具体的にご記入ください。

例：大学と町会・自治会が意見交換をする場があると良い。

<テーマ2> コミュニティ（地域）の絆づくりについて日ごろの状況やお考えについて伺います。

近年、地域住民の間柄が疎遠になったといわれますが、地域の祭りやイベントに参加することで、知り合いになり絆が深まる可能性が高まります。そこで地域の祭りやイベントの情報広く伝えるイベントカレンダー作成と地域住民同士があいさつしあえる関係づくりの手立てについて、あなたの町会・自治会の現状や考えをお聞かせください。

1 区民会議では、地域で行われている行事・イベントを多くの人々に広く知らせるイベントカレンダーの作成を検討しています。あなたの町会・自治会で行われている人の集まる行事（多数ある場合は、いくつでも）について名称、実施時期を教えてください。またそれらについてより広く他の地域の住民に知らせ、参加が増えることが望ましいかどうかについても教えてください。

(1) あなたの町会・自治会での人の集まる行事（例：大祭、地域祭り、盆踊り、運動会、体育祭など）について教えてください。

注 ○＝行事情報を公開し、他の地域の人にも広く行事へ参加してほしい。
 △＝行事の見学などは広く公開するが、一部については参加の制限がある。
 ×＝参加者が限定された行事で、一般的な参加はできない。

なお、イベントカレンダー作成の場合は、○、△が付いたものを掲載する予定です。

あなたの町会・自治会の名称

行事の名称	H26年度の実施時期 (○月○日または ○月第○曜日)	開催場所 (全域、または○○神社、○○公園など)	上の注を参照し、 ○、△、×をご記入ください
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

裏面のアンケートにもご協力をお願いします。

2 ラジオ体操を一定の時期、一定の場所で行うことは、近隣の住民が知り合いになるよい機会だと考えられますが、近年はラジオ体操を行う町会・自治会が少なくなってきました。あなたの町会・自治会ではどんな状況ですか？

(1) あなたの町会・自治会では現在ラジオ体操を実施していますか？（いずれかに○をし、続く質問にお答えください。）

- 1 実施している → 質問(2)にお進みください。
- 2 実施していない
- 3 その他 ()

(2) 実施している町会・自治会に伺います。今年度の実施の形態を教えてください。

① 実施日数に○印をつけてください。

- 1 1日 2 2～7日 3 8～10日 4 10日以上

② あなたの町会・自治会がラジオ体操を開催している場所はどこですか？ 開催場所の形態に○印をつけ、複数ある場合は、その箇所数をお書きください。

開催場所の形態	箇所数
1 公園	箇所
2 広場	箇所
3 寺社境内	箇所
4 その他 ()	箇所

③ 1箇所の平均参加人数はどれくらいですか。○をつけてください。

- 1 10人 2 20人 3 30人 4 40人 5 50人以上

④ 主な参加者を教えてください。(○はいくつでも)

- 1 子ども 2 母親 3 父親 4 祖父母 5 その他 ()

⑤ リードするグループを教えてください。○をつけてください。

- 1 子ども会 2 老人会 3 その他 ()

(3) ラジオ体操について、お考えのことがあれば自由にお書きください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。投函よろしく願いいたします。

第 4 期多摩区区民会議フォーラムの開催について

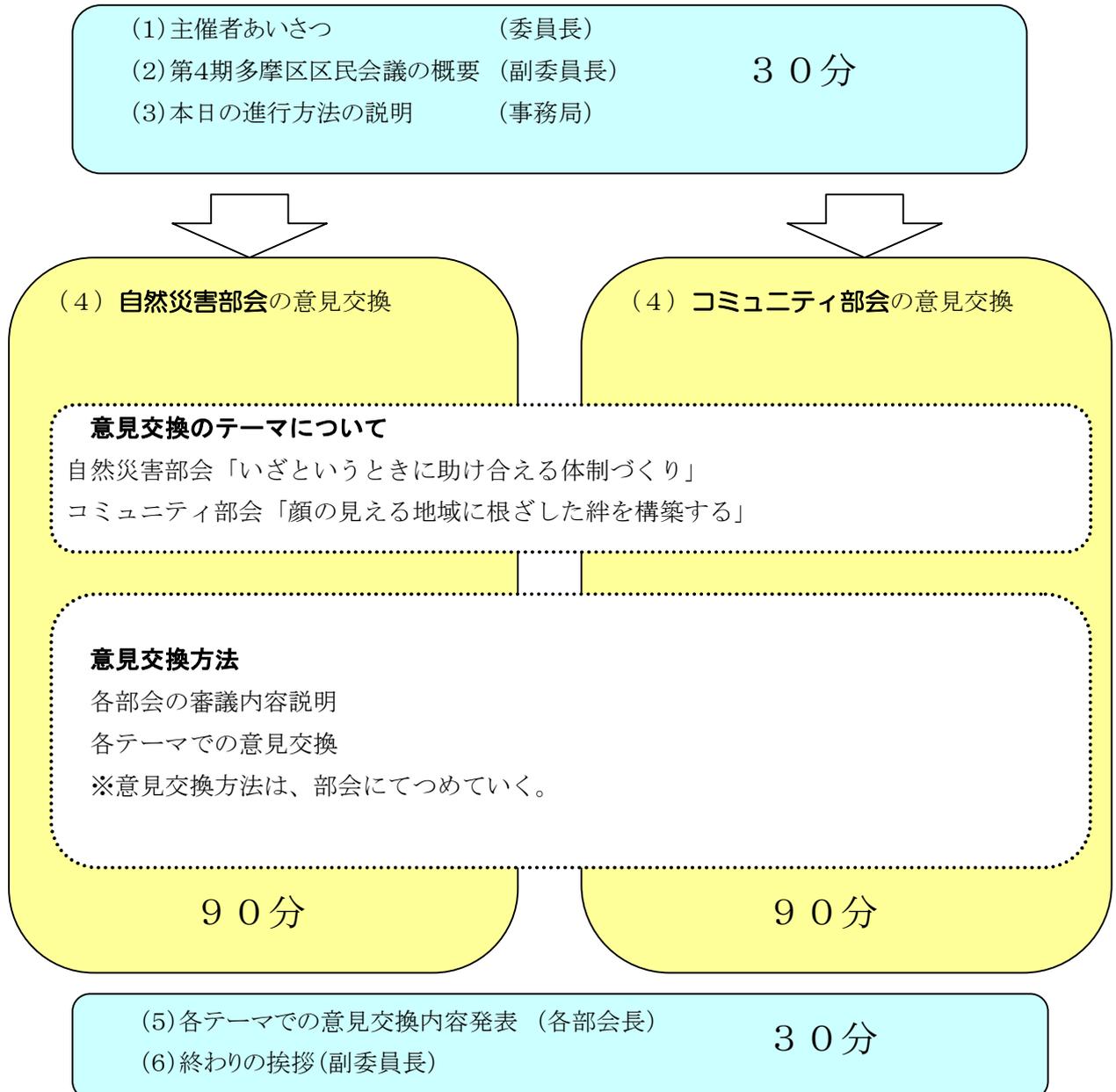
1 目的

第 4 期多摩区区民会議の審議内容について、区民の皆さんへ周知を図り、地域課題について共に考える機会とする。また、区民と意見交換を行うことにより、各審議テーマの提言案へ区民の意見を取り入れていく。

2 日時 平成 25 年 11 月 23 日（土） 13:30～16:00

3 会場 多摩区役所会議室

4 フォーラムの流れについて



5 役割について

部会（会場）ごとに座長、書記、発表者を区民会議委員から役割分担を行い進行する。

6 内容・タイムスケジュール

内 容	担 当	時間配分	時間割
(1)主催者あいさつ	委員長	5分	13:30 13:35
(2)第4期多摩区区民会議の概要	副委員長	10分	13:35 13:45
(3)本日の進行方法の説明 (区民会議全体構成の説明)	事務局	5分	13:45 13:50
※希望するテーマのテーブルへ移動			13:50 14:00
(4)テーマ別意見交換			
①自然災害部会	各部会員	各部会により、検討 (内容) 概要説明、意見交換	14:00 15:30
②コミュニティ部会			14:00 15:30
※元のテーブルへ移動する			15:30 15:40
(5)各テーマでの意見交換内容発表	各部会長	15分	15:40 15:55
(6)終わりのあいさつ	副委員長	5分	15:55 16:00
全体終了予定時刻 16:00			